

令和7年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立天栄中学校

- I 学校教育目標 豊かな心と意欲を持って未来を切り拓く生徒の育成
- II めざす学校像
- 「つながり」と「まなび」のある学校
 - 地域に開かれ信頼される学校
- III めざす生徒像
- 「認め合い、支え合い、学び合い、高め合う」生徒
 - 主体的に学び続ける生徒
 - 自分の考えを表現でき、他者の考えを受け止められる生徒
 - 正しい判断力と規範意識を身につけ、仲間や地域とのつながりを大切にす
る生徒
 - 心身ともに健康で、自分の夢の実現に向けて主体的に行動する生徒
- IV めざす教職員像
- 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、実践力・同僚性を高めあう教職員
 - 何事も誠実・迅速・親身に対応し、生徒・保護者から信用・信頼される教
職員
 - 学校運営と小中連携への参画意識をもち、職務と校務分掌の遂行に努める
教職員
- V 学校経営基本方針
- 1 信頼関係と人権感覚
信頼のあるつながりを構築し、自他ともに敬愛し大切にする。
 - 2 学びの保障
「誰ひとり取り残さない授業づくり」の実現に向けて、「主体的・対話的
で深い学び」の実践を目指した授業改善に取り組む。
 - ・ グループを活用した協働課題への挑戦
 - ・ ICTを活用した授業実践
 - ・ 地域資源や地域人材を生かしたキャリア教育の実施
 - ・ 家庭学習の定着を図る。
 - 3 校区学校との連携
「学びの部会」「育ちの部会」を中心とした小中連携の推進と教職員及び
児童生徒の連携を深める。
義務教育学校開校を意識した小中連携を展開し、校区としてめざす子ど
も像を明確にし、各発達段階に応じた小中一貫した取組を推進する。
 - 4 コミュニティ・スクール
地域の声を反映させた学校づくりや学校裁量予算を工夫した特色ある学
校づくりを推進する。
 - 5 安全・安心
教職員の危機管理及びコンプライアンス遵守の意識を高め、徹底を図る。

また、いのちを大切に作る安全教育を充実させるとともに、施設設備の安全管理の徹底を図る。

7 非認知能力の育成

あらゆる教育活動を通して非認知能力の育成を意識する。

8 総勤務時間の縮減

生徒の指導や支援のための組織的な体制を強化するとともに、事務作業の効率化を図ることで総勤務時間の縮減を図り、教職員の QOL を高めることで意欲向上と主体的・創造的な教育活動の改革改善を進める。

<R7 年度取組以下>

- ① 成果指標：1 人当たりの月平均時間外労働 30 時間以下
年間 360 時間を超える時間外労働者数 0 人
月 45 時間を超える時間外労働時間の延べ人数 0 人
- ② 活動指標：時間外勤務前年比 10%減、休暇取得前年比 10%増
設定した週の定時に退校できた職員の割合 100%、
予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100%、
放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 100%

VI 生徒の現状と課題

自己肯定感は少しずつ高くなってきている。

(「自分に良いところがあると思うか」 R5 77.9%→R6 83.0%)

さらに、将来への展望を持つ生徒の割合が少しずつ高くなってきている。

(「将来の夢や目標を持っているか」 R5 64.0%)

素直で真面目であるが、やや主体性に欠ける部分がある。また、考えや思いの表現・伝達・相手の気持ちや状況の読み取りが苦手で、人間関係の不調も散見されるため、コミュニケーション力の伸長に取り組み、生徒相互の関わりや生徒と教師との信頼関係の強化を進めなければならない。

これらの課題を克服するために、学びの中で信頼のある「つながり」を育み、そのつながりをあらゆる学校活動に生かし広げる。生徒会活動等を中心とした生徒の主体的・創造的な行動や発想を引き出す活動を進め、その力を認め育むことが望まれる。

その実現のため、研修を充実させ、教職員の組織的指導体制や生徒指導・支援方法等の改善を図ることとする。

VII 学校教育活動の推進計画

1 「学力」向上

(1) 学びの保障

ア 現状認識

- ・互いに学び合う雰囲気を作られつつある。
- ・主体的に取り組む姿勢や、積極的発言や発表には課題が残る。
- ・子どもの主体的な学びを育む協働課題を設定した協働的な学びの実践や ICT の利活用、UD の視点を取り入れた授業づくりの継続が必要。
- ・校区小中学校が連携して作成した「家庭学習の手引き」をブラッシュ

アップするとともに、ICTの活用を意識し、より効果的な活用方法を模索する必要がある。

- ・小中一貫教育実現を見据え、「学びの部会」を中心に授業づくりの連携と小学校との接続を意識した取組の継続が必要である。

イ 中長期の重点目標

- ① 校区小学校と連携した授業改善[協働的な学び]の充実
※「学びの部会」活用
- ② ICTを利活用した授業づくり、家庭学習の充実
- ③ 「表現力の育成」「言語活動の充実」
- ④ 教科の課題の共有と弱みの克服のための目標の数値化

ウ 本年度の行動計画

- ① グループ活動を取り入れた「協働課題」の設定と学び合う授業づくりの研究
 - ・生徒相互の関わりやつながりを重視した授業展開
⇒ 非認知能力の育成：やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性
 - ・ICT利活用 ⇒リーディングDXスクールの推進
 - ・主体的・対話的な取り組みを育む課題づくり
 - ・授業者のファシリテータースキルの向上
 - ・校区小学校と共有・連携した「協働的な学び」の実践
※「学びの部会」活用
- ② 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック分析結果のフィードバック
- ③ ワークショップ型校内研修開催
- ④ 読書活動推進
- ⑤ 家庭学習定着
「家庭学習の手引き」のブラッシュアップと家庭への周知
- ⑥ キャリア教育
ICTを活用したキャリア教育の推進

2 組織力の向上

(1) 特別支援教育

ア 現状認識

- ・小中の連続性と、将来の社会参加を視野に入れた支援のあり方を追求し、仲間が困っている際に、必要な協力や支援のできる生徒を育む取組を継続する必要がある。

イ 中長期の重点目標

- ① 教職員・生徒・保護者のインクルーシブ教育に係る考え方の浸透を図る。
- ② ユニバーサルデザインの視点を教育活動全体に生かす。
- ③ 必要に応じて、教育委員会及び福祉・医療との連携を図る。

ウ 本年度の行動計画

- ① 校内体制の強化
- ② 校区小学校との連携促進

(2) 生徒指導・支援(長期欠席対策を含む)

ア 現状認識

- ・自己肯定感の向上や生徒の主体性を高める取組を進める必要がある。
- ・生徒に寄り添う指導を心がけ、生徒や保護者との信頼関係向上に努め、相談しやすい雰囲気づくりを意識している。
- ・生徒理解に努め、個々に応じた指導・支援のさらなるスキルアップの必要性
- ・長期欠席生徒の割合

【R6 1年：5.6% 2年：11.0% 3年：6.5% 全体：7.8%】

イ 中長期の重点目標

- | | | |
|----------------------------------|---|--------------------------------------|
| ① 発達支持的生徒指導の実践 | } | 【非認知能力の育成】
やりぬく力、自制心
自己肯定感、社会性 |
| ② 承認活動等の取組の継続 | | |
| ③ レジリエンスを育むプログラムの実践 | | |
| ④ 基本的な生活習慣の定着とスクリーンタイム削減のための取組 | | |
| ⑤ スクールカウンセラーや福祉分野等の専門機関との連携体制の深化 | | |
| ⑥ いじめ、SNSトラブルの未然防止 | | |

ウ 本年度の行動計画

- ① 組織的な対応強化による問題行動等の未然防止や的確な対応
- ② 教育相談の充実と自己肯定感の向上によるいじめや不登校の未然防止
- ③ 信頼のあるつながりによる安心できる居場所づくり
[校内教育支援教室：あい教室の活用]

(3) 人権教育

ア 現状認識

- ・友好的な人間関係の構築に心を配り、状況は概ね良好。
- ・積極的に生徒の良さに目を向け評価する取り組みや、生徒同士の「つながり」に焦点を当てた取り組みについて、引き続き取り組む必要がある。

イ 中長期の重点目標

自他を大切にできる心情と差別をなくす行動力の涵養

- ① 学校教育活動全般における、人権尊重の精神に立った指導の充実
- ② 発達段階に応じた系統的な人権学習によるいじめや偏見をなくす力の涵養
- ③ 多文化共生教育の推進
- ④ 学校いじめ対策基本方針に基づいた対策と、いじめ対策委員会の実効化

ウ 本年度の行動計画

- ① 生徒の「人とつながる力」を高める実践の強化
- ② 人権教育の実践強化
- ③ いじめ根絶のための取組継続と強化

(4) 生徒会

ア 現状認識

- ・生徒会活動のマンネリ化、形骸化がみられる。

イ 中長期の重点目標

- ① 生徒会の活性化による生徒の主体性の涵養
- ② 生徒会活動の魅力ややりがいの浸透

ウ 本年度の行動計画

- ① 生徒主体による日常的な取組
- ② 学校行事等への取組
- ③ 校区小学校児童会との交流

※「育ちの部会：子ども交流委員会」の活用

(5) 職場環境

ア 現状認識

- ・対話を大切にした職場環境づくりが重要であり、総勤務時の縮減や学校教育活動の活性化と効率化をバランスよく進め、教職員の満足度を高める必要がある。

イ 中長期の重点目標

- ① 総勤務時間の縮減
- ② 行事等の精選と会議や事務作業の効率化
- ③ 職務と家庭生活とのバランス維持と QOL の充実
- ④ 子育て世代の育児参加の機会保障
- ⑤ 風通しの良い、働きたいと実感できる職場環境の改善
- ⑥ メンタルヘルスに留意した、活気ある職場環境の構築

ウ 本年度の行動計画

- ① 組織体制の見直し
- ② 風通しの良い職場環境づくり
- ③ 日常的な OJT を充実させることで教職員集団の活性化、同僚性の育成
- ④ 総勤務時間の縮減

3 開かれた学校

(1) コミュニティ・スクール

ア 現状認識

- ・熟議を充実させ、それを教育活動の改善につなげるため、積極的な情報発信と保護者や地域住民の学校教育活動への参加意欲を高める工夫が必要。

イ 中長期の重点目標

- ① 協働型のコミュニティ・スクール構築
- ② 地域力を活用した学校支援と学校力を活用した地域づくりへの貢献

ウ 本年度の行動計画

- ① 学校関係者評価による改善
- ② 学校と地域との双方向の連携促進

(2) 小中学校の連携と一貫した教育活動

ア 現状認識

- ・校区の実態や特色を踏まえながら着実に取組を進めている。

イ 中長期の重点目標

- ・小中での途切れのない支援の推進
- ウ 本年度の行動計画
 - ・校区教職員及び保護者・地域の連携促進のための協働深化
- (3) 危機管理
 - ア 現状認識
 - ・地域と密接に連携した安全対策の継続が必要。
 - ・防災対策における生徒の安全対策推進が必要。
 - イ 中長期の重点目標
 - ① 教職員の危機管理意識及びコンプライアンス遵守の向上
 - ② 生徒の危機管理意識を育て、危険予知回避能力の育成
 - ③ 安全教育や不審者情報の共有等、安全で安心な地域づくり
 - ④ 地域と連携した防災対策や防災システム構築
 - ウ 本年度の行動計画
 - ① 教職員の危機管理意識・対応能力向上の研修充実
 - ② 地域と連携協力した防災行事の実施
 - ③ 地域自治会連合会の支援を受けての、交通安全施設改善要望提出